

2024年1月25日

Hondaの米国現地法人であるアメリカン・ホンダモーター（本社：カリフォルニア州トーランス 社長：貝原 典也）は、現地時間2024年1月25日に以下を発表しましたので、その内容をご案内いたします

Honda とゼネラルモーターズ（GM）の合弁会社 Fuel Cell System Manufacturing, LLC において 燃料電池システムの生産を開始

Honda とゼネラルモーターズ（以下、GM）の合弁会社である Fuel Cell System Manufacturing, LLC（以下、FCSM）は、Honda と GM が共同開発した燃料電池システムの生産を開始しました。

FCSM は、先進の燃料電池システムを生産する自動車業界初の合弁会社として2017年1月に設立。米国ミシガン州ブラウズタウンにある、70,000平方フィートの敷地を有する GM の既存バッテリーパック生産工場内に設置されました。両社が同額ずつ拠出した投資総額は8500万ドルになります。

FCSM で生産される燃料電池システムは、2024年以内に Honda が発売を予定している新型燃料電池自動車（FCEV）へ搭載されます。さらに、商用車、定置電源、建設機械を加えた4つの適用領域を中心に、B to B のお客様に向けた製品・事業への適用拡大により、水素需要の喚起を図っていきます。

Honda は、2050年に Honda の関わる全ての製品と企業活動を通じてカーボンニュートラルの実現を目指すとともに、製品だけでなく、企業活動を含めたライフサイクルでの環境負荷ゼロの実現に向けて、「カーボンニュートラル」「クリーンエネルギー」「リソースサーキュレーション」の3つを柱に取り組んでいます。その中で水素を、電気とともに有望なエネルギーキャリアと位置づけており、30年以上にわたり水素技術や FCEV の研究・開発をおこなっています。2013年からは GM と燃料電池システムの共同開発に着手し、将来の普及・活用拡大に向けてより実用的かつ低コストなシステムの開発・生産を目指し取り組んできました。

今回生産を開始した燃料電池システムは、腐食耐性の高い材料の適用などで耐久性を2倍に向上させたほか、耐低温性も大幅に向上しています。また、セルシール構造の進化や、貴金属使用量の大幅な削減、大規模生産によるスケールメリットの最大化、部品調達先の共通化など、さまざまなアプローチにより開発・製造コストを削減。「CLARITY FUEL CELL（クラリティフューエルセル）」〈2019年モデル〉に搭載していた燃料電池システムに対して、コストを3分の1に抑えています。

■ FCSM 社長 Suheb Haq (ソーヘイブ・ハック) のコメント

「この度の生産開始は、GM と Honda にとって、移動をはじめとするさまざまなエネルギー需要のカーボンニュートラル化の取り組みにおける重要なマイルストーンとなりました。私たちは、高品質で耐久性が高く手頃な価格の水素燃料電池システムをお客様に提供するという使命のもとに、FCSM の全員が『ワンチーム』となって取り組みました」

■ FCSM 副社長 鈴木 哲男のコメント

「Honda と GM の強みを統合した、強力な生産体制を作り上げました。細部にまでこだわった品質の高い量産体制を実現し、将来の水素燃料電池技術の活用と水素時代の幕開けに向けて、お客様のニーズにお応えする準備が整いました」

<参考>

■ FCSM

GM-Honda Begin Commercial Production at Industry's First Hydrogen Fuel Cell System Manufacturing Joint Venture

<https://hondanews.com/en-US/releases/gm-honda-begin-commercial-production-at-industrys-first-hydrogen-fuel-cell-system-manufacturing-joint-venture>

■ Honda

水素事業の取り組みについて (2023 年 2 月 2 日)

<https://global.honda/jp/news/2023/c230202.html>

Honda 水素事業ウェブサイト

<https://global.honda/jp/hydrogen/>